

【W5、W6】「多様な人との音楽活動～コミュニティ・ミュージックの事例紹介とうたづくりワークショップ」

【講師】赤羽 美希

【要旨】

インターネット等の科学技術の発達によって、私たちはいつでもどこでも聴きたい音楽を聴くことができ、音楽を聴くのには何の不自由もない生活が送れるようになりました。では、音楽を「実践する（演奏する・作曲するなど）」ことに関してはどうでしょうか？音楽を専門にする人を除いて、多くの人にとって、義務教育を卒業した後は、音楽を実践すること、特に「誰かと」一緒に音楽を実践する機会は、カラオケ以外は特別に求めなければ得られないものになってしまいます。

他者と音楽を実践する機会はその人に大きなインパクトを与える、ということは音楽療法士の皆さんが日々実感されていることと思います。どんな立場や背景の人であっても、誰もが望むときに音楽を誰かと実践できる機会が得られることが理想です。この「誰かと一緒に音楽を実践する」機会のことを、欧米では「コミュニティ・ミュージック」と呼んできました。欧米における「コミュニティ・ミュージック」は、音楽に手の届きにくい人に届けることを目的として行われ、発展してきた背景があり、コミュニティ・ミュージックの歴史は尊厳を損なわれた個々人がそれを音楽を通して回復していく様を映し出しています。

音楽ユニット即興からめーる団（赤羽美希＋正木恵子）は、2007 年よりコミュニティ・ミュージック活動に携わり、音楽に手が届きにくく、かつ、自らの「声」を発信しにくい障害者や子どもを含む多様な人が出会い、音楽創作を通じて交流し、年齢や障害等の背景によらず、一人一人が個性的で尊い存在であることを肌で感じ合い、多様な人の間で一人一人が尊重される場づくりを目指し、「うたの住む家プロジェクト」に取り組んできました。また、保育園や障害者福祉施設、高齢者施設等でのうたづくりを行い、彼らの「聴かれざる声」を「うた」にする活動にも携わっています。

本講習では、コミュニティ・ミュージックの考え方について触れ、即興からめーる団の行ってきた事例について紹介した後で、多様な人と音楽を実践し、共有する方法の一つとして、他者と共同で一つのうたをつくる、「共同作曲」によるうたづくりを体験します。

【プロフィール】

音楽家。奈良女子大学文学部卒業、東京藝術大学大学院音楽研究科修了。コミュニティ音楽プロジェクト「うたの住む家」他を主宰。多様な人との音楽遊び・創作ワークショップを企画・実施。現在は、実践・研究・教育の幅広い分野で精力的に活動している。国立音楽大学コミュニティ音楽コース、東京音楽大学音楽文化教育専攻他非常勤講師。著書に『かんたん！わくわく！楽器あそびと合奏の本』（YMEH）他がある。